



ろうさいだより



明けまして
おめでとうございます

院長 豊島 良太

年が明け、令和 2 年になりました。皆さまには、ご家族と良いお正月をお過ごしになったこととお慶び申し上げます。

ご存知のように、当院では新しい病院を建設中です。今、建設中の部分は最終的に完成する病院全体の約 2/3 に相当します（図）。一般外来や救急外来、画像センターを 1 階に、一般外来と検査センターを 2 階に、手術室や HCU（高度治療室）を 3 階に、そして 4～6 階を病棟とする計画です。

工事は昨年 6 月の起工から順調に進み、今年の末には完成予定です。そして、来年の初めには引っ越しをして、運用できると考えています。これにより、患者さんの療養環境と医療機能は格段に向上しますので、これまで以上に地域医療に貢献できるものと思っています。

続いて行う工事は、新病棟の東に隣接する古い建物を壊してから始めます。そのため、工期は長く、すべてが完成するまでには皆さまにはご不便やご迷惑をおかけしますことをご理解いただきますようお願い申し上げます。

一部ですが、労災病院が 57 年ぶりに新しくなることにご期待いただき、今年が皆さまにとりまして良い年になりますことを心よりお祈り申し上げます。

西南から見た完成予想図



建物の西側 2/3（点線より左部分）が今年の暮れに完成予定です。

インフルエンザの 院内感染を防ぐために

感染制御実践看護師 鹿原 佳子



インフルエンザが流行しています。入院患者様への面会をご遠慮ください。」

当院では、インフルエンザ流行期になると、正面玄関やエレベーター前などにこのようなポスターを掲示しています。「せっかくお見舞いに行ったのに顔も見ずに帰ったわ…。」こんな声を耳にすると心苦しく、本当に申し訳ない気持ちでいっぱいになります。患者さん自身も面会に来て頂いた方に会いたいはずです。しかしこれは、入院患者さんはもちろん、ご家族や面会に来られた方、地域の方など病院に関わる全ての人を感染から守るために行っている対策のひとつなのです。ではなぜ面会制限をするのか、少しお話ししたいと思います。

感染とは外から体の中に細菌やウイルスなどが入って病気を起こすことを言います。寒くなると毎年インフルエンザが流行しますが、その時に「インフルエンザにかかってしまった!」と聞いたり言ったりする事があるかもしれません。それは「インフルエンザウイルスに感染した!」ということなのです。インフルエンザなどのウイルス性疾患は、感染していても体に症状が出るまでの「潜伏期間」と、感染しても症状が現れないので気が付かない「不顕性感染」があります。いずれも目立った症状がないにもかかわらず、ウイルスを体外に排出しています。そのような状況の時に面会にいらっしゃると、知らず知らずのうちに患者さんにうつしてしまっている恐れがあります。細菌やウイルスは目に見えないため、検査をしないとその存在が分かりません。感染の原因になるウイルスは、病院以外でも家庭や学校、人のたくさん集まるところなど、どこにでも存在しますので、それを面会によって病院に持ち込むと患者さんが感染

する危険があります。

当院には病気や手術で抵抗力が弱った患者さんが多くおられます。そのような患者さんは感染しやすく、一度感染症になると時には命にかかわる重篤な状態になってしまう事がある一方で、面会に来られた人も院内に存在したウイルスに感染し、それを家庭に持ち帰ることもあります。以上のことが面会を制限する理由です。

冬に流行すると言われるインフルエンザも、最近では一年中発症が確認される感染症となっています。院内感染を防ぐには、病原体を持ちこまない、うつさない、拡げないようにすることが重要です。そのためには職員はもちろん、病院に関わるすべての人の理解が必要です。決してイジワルで面会を禁止しているわけではありませので、どうかインフルエンザ流行期の面会制限にご理解とご協力をお願いいたします。



医療安全推進週間を終えて

医療安全管理者 多田 裕子

全国の医療機関では、11月25日(“いい医療に向かってGO”)を含む一週間を「医療安全推進週間」と定め、医療関係者の意識向上や患者の皆さんに対し医療安全への理解を深めていただくための様々な取り組みを行っています。

当院においては「患者間違い報告ゼロ!キャンペーン」と題し、患者の皆さんに「氏名を名乗っていただくこと」が一番という説明用紙(図1)を添えてティッシュペーパーを配布しました。患者さんには生年月日、氏名を名乗っていただき患者確認を行っています。患者間違いをゼロにするために、病院ではしつこいぐらいお名前等を確認していますが、患者の皆さんの協力無くしては実現しません。ご理解の上、ご協力をお願いいたします。

安全性向上を目指した医療安全活動、また、その実践を患者さんへ紹介する機会として院内18部署の取り組みをパネルにて展示しました。各部署が医療安全の取り組み内容の報告を行い(表1)、患者さんから「興味深く見させてもらった」とお言葉をかけていただきました。今後も安全第一で

継続して取り組んでいきたいと思ひます。

その他、医療安全院内パトロール、安全に食事提供が行われているかを確認する食事介助ラウンドの実施、職員向けに災害研修を開催しました。

患者さんと私たち医療者とは、病気の治療という目標達成のために、お互い平等の立場で人として協力し合うパートナーです。私たち医療者だけではなく、患者さんにも積極的に医療に参加していただき安心・安全で心の通う医療の一層の実現を目指していきたく思ひます。



図1【患者誤認説明用紙 ティッシュと共に配布】

部 署	取り組み	部 署	取り組み
救急病棟	薬品破損 ゼロ～	高次治療室	テープによる皮膚損傷減らそう
4東病棟	正しいダブルチェック	4西病棟	内服準備スペース確保
5東病棟	配膳時の名前確認	5西病棟	注射未実施ゼロ!
6東病棟	転倒・転落防止対策	6西病棟	注射薬の確認6Rの確実な実施
2南病棟	インシデント事例の分析をしよう	外 来	患者誤認防止
手術室	器械室の整理整頓	腎センター	患者の通路を確保する
検査室	～検査報告の遅延を防ぐ～	放射線部	ベッドからの安全な移乗
リハビリ	地震災害の初期対応	栄養管理室	食品の品質、危機管理強化
医 局	抗凝固剤開始忘れ防止	薬 剤 部	化学療法室ミキシング室5S活動

表1【各部署 医療安全活動パネル内容】

第8回 世界腎臓デー in 米子

薬剤部 谷口 彰正

みなさん自分の腎臓について気にしたことはありますか?

毎年3月の第2木曜日は「世界腎臓デー」と呼ばれ、腎臓病の早期発見と治療の重要性を啓発するイベントが世界各地で開催されます。今年は3月12日が世界腎臓デーに当たります。

当院では年々増加している慢性腎臓病について広く知っていただくため、毎年この時期に世界腎臓デー in 米子を開催しています。第8回目となる今回は、3月15日に米子コンベンションセンターで開催いたします。

今年も「慢性腎臓病とはどのような病気なのか?」「どのようにして予防するのか?」など、慢

性腎臓病について腎臓病・糖尿病・高血圧の各分野の専門医や、管理栄養士などの医療スタッフによるリレー講演を行います。また、他にも血圧測定、味覚チェック、腎臓エコー検査、たんぱく尿の検査や、専門家による医療・健康相談、腎臓病クイズなどの様々なイベントも計画しています。

これを機に自分の腎臓について考えてみましょう!参加費用は無料ですので、お気軽にご参加下さい!



山陰労災病院健康講話 2月(263回)

無料・予約不要

演 題：高齢者の口腔機能の衰え
(オーラルフレイル)について
講 師：高橋 啓介(歯科口腔外科部長)
日 時：2月17日(月)
午後2時～3時30分
場 所：山陰労災病院3階会議室

滑舌が悪い、噛めない食品が増える、むせる、食べこぼすなど、口の衰えを感じることはありませんか？ 加齢とともに起こる口のまわりの“ささいな衰え”を“年のせい”と放置すると、食が偏ったり、人と話をしたり食事をするのが億劫になり、食欲や体力の低下、社会性の低下を招きます。このような状態をオーラルフレイルと言い、やがて低栄養や筋肉の減少により要介護状態になるリスクが高まるといわれています。口の衰えに早く気づき、適切に対処することが重要です。放置してはいけないう口の衰えと、その対策についてお話しします。

<今後の健康講話予定> 3月の予定:木下 英人(消化器内科)
4月の予定:未定

予定は変更になる場合があります。ご了承下さい。



おせち料理

栄養管理室からの
かんたん健康レシピ

お正月と言えば「おせち料理(御節料理)」。数の子、伊達巻…。新年の門出を祝うと同時に家族で食卓を囲む良い機会にもなりますね。



由来・意味

もともとは収穫物の報告や感謝の意をこめ、その土地でとれたものをお供えしていたようですが、暮らしや食文化が豊かになるに従い山海の幸を盛り込んだご馳走となり、現在のおせちの原型ができたそうです。また、正月三が日は主婦を家事から解放するという意味を含め、保存の効く食材が中心のものになったといわれています。

三段重に詰める料理

～一の重～

<祝い肴>
数の子、田作り、黒豆、
たたきごぼう等
<口取り>
紅白かまぼこ、伊達巻、昆布巻
栗きんとん等

～二の重～

<酢の物>
紅白なます、菊花かぶ、
小肌栗漬け
<焼き物>
ぶり、鯛、エビ
※エビは長生きの象徴です

～三の重～

<煮物>
れんこん、里芋、くわい、
八つ頭、ごぼう等
山の幸を中心に、家族が仲良く結ばれるように…

地方やしきたりによって詰め方はいろいろあるようです。

ピリ辛田作り



ちょっとピリ辛とゴマの
風味がアクセント！

材料／2人分

ごまめ	20g	みりん	小さじ1
ゴマ油	小さじ1	砂糖	大さじ1
豆板醤	小さじ1/8	いりごま	適量
醤油	小さじ1		

- ①フライパンにごまめを入れて少し色づくくらいまで炒り、取り出す(中火～弱火)
- ②同じフライパンにゴマ以外の合わせた調味料を入れる
- ③少し煮詰めて火を止め、①で炒ったごまめを入れ絡める(中火～弱火)
- ④いりごまを散らして、できあがり



ボランティア募集

山陰労災病院では病院ボランティアを募集しております。
ご興味のある方は山陰労災病院総務課までご連絡ください。

活動時間帯:平日午前(週1～2回程度) 活動内容:インフォメーション業務等

●2020年1月発行 ●ご意見等ございましたらお気軽にお問い合わせください E-mail:toiawase@saninh.johas.go.jp

問い合わせ先:山陰労災病院総務課

TEL 0859-33-8181 FAX 0859-22-9651

〒683-8605 鳥取県米子市皆生新田1丁目8番1号

ホームページ

さんいんろうさい

検索